

## 第50回全国陸上貨物運送事業労働災害防止大会 会長挨拶

本日、ここに、創立50周年記念第50回全国陸上貨物運送事業労働災害防止大会を開催するに当たり、一言ご挨拶を申し上げます。

さて、本日の大会には、全国各地から大変多くの皆様にお集まりいただいております、お陰様で、このように盛大に本大会を開催できました。心から厚く御礼申し上げます。

また、本大会には、公務ご多忙のところ、厚生労働省労働基準局安全衛生部長 土屋喜久様、国土交通省自動車局貨物課長 祓川直也様、警察庁交通局交通企画課長 早川治様そして、東京都産業労働局雇用就業部長 矢田部裕文様をはじめ、多数のご来賓のご臨席を賜りましたことを誠に光栄に存じ、厚く御礼申し上げます。

さらに、本日は、労働災害の防止に顕著な功績をあげられました事業場、団体、個人の方々への表彰を行うこととしております。受賞されます皆様方には、これまでのたゆまぬご努力、ご精進に対し深く敬意を表しますとともに、心からお慶びを申し上げます。

さて、当協会では、陸運業の労働災害を中期的な観点から防止するために、平成25年度から29年度までを計画期間とする「陸上貨物運送事業労働災害防止計画」を昨年度策定し、スタートしました。

この5か年計画では、労働災害による死亡者数を20%以上減少させ、また、死傷者数を10%以上減少させるなどの目標を掲げ、重点的な労

働災害に取り組んでいるところです。

本年は協会設立50周年です。当協会が設立された昭和39年を振り返りますと、陸運業における労働災害による死亡者数は、606名、そして死傷者数は、当時は休業8日以上でしたが、44,094人でありました。その後、関係者のたゆまぬご尽力により、昨年平成25年は、死亡者数は107人と50年で約6分の1に、そして死傷者数、現在は休業4日以上ですが、14,190人と約3分の1に大きく減少したところです。

しかしながら、死傷災害は、昨年まで4年連続で増加をしております。さらに、本年1月から9月の速報値では、死亡者数は79人で前年同期に比べ38.6%の大幅な増加となっており、また死傷者数も9,340人で1.6%の増加となっており、5年連続での死傷者数の増加が懸念されるなど極めて憂慮すべき状況となっております。

このため、厚生労働省から、本年8月に「労働災害のない職場づくりに向けた緊急要請」が私あてにあり、当協会として、本部、支部が一体となって、安全衛生活動の総点検の実施をはじめ、「緊急警報 トラック運転者の荷役災害が急増中！」と題したリーフレットを作成し、トラックからの墜落・転落防止についての注意喚起を行うなど、労働災害防止の取組を強化しているところです。

陸運業の死傷災害は、荷役作業に関係するものが7割以上を占めており、そのうち、墜落・転落災害が最も多く3割以上を占めています。また、荷役関係災害の約7割が荷主等の構内で発生しています。

このため、当協会として、増加の止まらない死傷災害に何としても歯止

めをかけるべく、その多くを占める荷役関係災害の防止を最優先に取り組むとともに、本年度は、厚生労働省委託事業として、荷主の皆さまを対象とした「荷役災害防止担当者の講習会」を全国で開催するなど、荷役ガイドラインによる、荷主等と連携した荷役災害の防止に努めているところです。また、死亡者数の多くを占める交通労働災害の防止にも、総力を挙げて取り組むこととしております。関係行政機関、関係団体の皆様方には、一層のご指導、ご支援をよろしくお願い申し上げます。

陸運業は、引き続き厳しい経営環境のもとにあります。我が国の経済活動と国民生活を支える物流の中核として、重要な役割を担っています。このような役割を、今後とも十分に果たしていく上でも、働く人々の安全と健康を確保していくことは、必要不可欠であります。

本日、お集まりの皆様方におかれましては、本大会を契機に、これまで以上に充実した実効ある労働災害防止活動を展開されますようお願い申し上げます。

結びに、本大会開催に大変ご尽力をいただきました陸災防東京都支部の皆様をはじめ、多くの関係者の方々に厚く御礼を申し上げますとともに、お集まりの皆様方の事業場の益々のご繁栄と労働災害ゼロを心から祈念し、私の挨拶といたします。

平成26年11月19日

陸上貨物運送事業労働災害防止協会会長

川合正矩